



春南中だより

春日部市立春日部南中学校 令和4年度 第3号 令和4年6月1日発行

言霊(ことだま)・変える勇気 (チェンジ)

校長 石塚 廣一

第4回体育祭、保護者の皆様のご観覧を賜り、無事に挙行できましたことに感謝申し上げます。人に見られているというその思いが、生徒たちの力をさらに大きくしていたように感じました。ありがとうございます。今月は、運動部の学校総合大会や吹奏楽部による演奏会が予定されます。

そのスポーツや発表会、元体操日本代表だった村上茉愛(むらかみ・まい、1996年生まれ)さんの経験談です。村上さんは、母の勧めで4歳から体操を始め、中学2年生で全国中学校大会個人総合優勝、全日本選手権ゆかで優勝、2017年世界選手権ゆかで日本女子63年ぶりの金、翌年同大会で個人総合銀、東京五輪では個人総合5位、ゆかで銅を獲得し同年引退しました。村上さんのお話。

『当時は課題をこなすことに精一杯でしたが、中学1年から高校3年までの間でコーチから“なぜ技が失敗したのか、どこが失敗した原因なのか”をしっかりと考えなさいと言われて、普段の練習から少しずつ考えるようになり、技の成功率も上がっていったように思えます。ただし、自分で考えるということは、甘えが出るとどこまでもサボることができ、気持ちを強く追い込むことが苦手な私には難しいことでした。その日の調子と気分で練習を決める、そんなやり方だったので演技途中で諦めてしまい、結果が出ませんでした。なかなか前向きに取り組めない時に、大学時代から指導していただいた監督に“考え方を改めなさい”と言われたことがあります。最初はあまり理解できませんでしたが、学年が進むと言われた意味がわかり始めたような気がします。いきなり何かを大きく変えてみるということではなく、日々“コンスタントにこなす練習”の中で、時間をかけて練習内容や考え方を改善していくことにより、いい方向に自然と傾いていき、今までこんなにも自分ができていなかったのかと後になって気づくことができました。その時を境にして、何か自分が悩んだときや今駄目だなと思うときは、この言葉を思い出すとやる気が出るので、勇気づけられる言葉にもなりました』

【体育祭-南中ソーラン節5名の団長による言霊】

場面1『団長宣言2022(に-まるに-に-)、全生徒の思いをのせて、完全燃焼で踊ります。保護者の皆様ー、地域の皆様ー、お世話になっている先生方ー、今年のソーラン節を最強の歴史にすることを宣言します。チャンス・チャレンジ・チェンジ、春日部南中学校の伝統を繋ぎます。南中ソーランいくぞー』

場面2『完全燃焼、気合入れていくぞー、準備はいいかー、南中ソーラン、かまえ』

場面3『なおい、感謝の気持ちを込めて、礼。回れ右、退場』

今年度の3年生は5クラスであったため、5名による団長がその任を務めました。

この南中ソーラン節は、唯一の全校演技種目。躍動する体と心、思いとエネルギーの融合、やり抜く一つの演技への思いがグラウンドいっぱいに表われていました。

“見事なるチェンジ、天晴れ”

